

本日は、私個人のことを中心にお話したいと思います。私は、昭和48年11月21日生まれ、現在50歳です。生まれも育ちもさいたま市（旧大宮市）です。現在も実家の近くに住んでおります。家族構成は、妻と娘の3人家族です。父と母も健在です。地元の桜木小・中を卒業しました。小学校は昔ソニックシティの所にあり、2年生の時までこちらに通っておりました。中学生の時にソニックシティが開館し、大宮に超高層ビルができたのには驚きました。高校は、埼玉栄高等学校に進学しました。私が入学した当時は、部活に加入するのが必須でしたので、空手部に所属しておりました。そして学生生活は部活中心の生活でしたが、3年生の時には生徒会の副会長も務めておりました。大学は、東北地方の大学に進学し4年間太平洋沿岸の港町で生活しておりました。海が目の前でしたので食べ物美味しく太ってしまいました。大学を卒業した時は、バブル崩壊後で就職先がないという時でしたが、父の勧めもあり保険業界に入る事になりました。保険の販売を約20年間続けておりましたが、家業を継ぐことになり、現在に至ります。まだ入会して1年もたっておりませんので、まだまだ分からないことばかりです。今後におきましても皆様方の御指導を仰ぐばかりだと存じます。何卒、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

### いにしえスピーチ

#### 清水 恒信 会員

今更ながらスピーチは無いと高をくくっておりましたので急に忙しくなり慌ててしまいました。慌ててるって事は未だ人前で格好つけようと言う気持ちが動いている訳でして未だ捨てたもんじゃ無いナアと感じております。さて折角頂いた大事な時間ですので お役目果たさせて頂きます。実は子供の頃から勉強を初めじっとしている事が苦手でありまして、中学・高校と、柔道と吹奏楽に夢中になりまして、そしてその後はグループサウンズに明け暮れ、24歳になる春に結婚する事になり…そうもしていられなくなりまして、八百屋の親父になった訳であります。やがて歳と共に業界の会合にも参加、そして34歳になる春に大宮の青年会議所に入る事になり、その時カルチャーショックを受ける事になります。そこで自分の馬鹿さ加減、自分の至らなさに思い当たるのであります。いろいろありましたが、明治時代の歌人 九条武子さんの歌「見ずや君 あすは散りなん 花だにも 力のかぎり ひとときを 咲く」にめぐり合う事になる訳であります。この歌はご本人は相当重い肺の病を抱えておりましたので、自分と置き換えてそして考えたと推察致します。

誰も見てくれない路端の一輪の花、明日は散るかも知れない路端の一輪の花が、「私、綺麗でしょう」と一生懸命咲いております。そんな感じかと思えます。しかし私はこう感じたのです。→「青年よ!! 限りある命の中で一生懸命生きていますか?」与えられている、限りある命を生かし切って生きているかを聞かれていると感じたので、後ろからハンマーで頭をなぐられた感じ。涙がポロポロ流れて、自分の不甲斐なさを大きく感じて、しばらく絶句をしていた事を思い出します。同じ世代のまわりの青年会議所の若者が見事に生きており、そしてこの九条武子さんの歌であります。遅まきながらいろいろやる気がめばえたのは言うまでのことではありません。



## スマイル報告

■副 SAA  
井田 人志



## 奉仕事業報告

■社会奉仕担当理事 十文字 裕司

社会奉仕委員会 吉田 浩士

地区補助金を活用した社会奉仕活動として、7月31日（水）に、埼玉県立特別支援学校 大宮ろう学園へ体操マットの寄贈を行いました。藤池会員にご協力いただき、8月30日（金）に体操マットへステンシルにて当クラブの名入れを行い、寄贈を完了いたしました。（

